

平和

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

4月から川口基督教会の牧師として働き始め、同7日には牧師任命式が行われました。赴任直後、早速、今までの慣例ということで、今年のイースター祝会の際に使うランチョンマットに入れる聖句の選定を頼まれました。私としては、復活のイエス様の平和のメッセージと約束を考えながら、ヨハネによる福音書の次のみ言葉を選びました。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。」私たちは、毎週の聖餐式の中で「平和の挨拶」を交わしています。それこそまさにイエス様が残した平和、イエス様から与えられた真の平和を分かち合うための大事な時間であると思います。

そして、宣教師として初めて日本に来た時の経験を思い出しました。立教大学のチャプレンとして赴任するため私が日本に着いたのは、2000年12月でした。その時、世界中はいわゆるニュー・ミレニアムを迎えて、大騒ぎでした。多くの人々は、平和な時代への期待で夢を膨らましていた頃でした。そこから日本語を習い始めましたが、改めて平和について気付かされたことがありました。

平和に関するイエス様の言葉の中でも最も有名なのは、マタイによる福音書の第5章9節で、山上の垂訓の一節です。韓国語の聖書はこの節を「和平に努める人」(改訳)、「平和のために働く人」(共同訳聖書)、「平和を作る人」(新共同訳)と訳しています。同じ箇所の日本文語聖書を開いてみると「平和を作る者」(口語訳)、そして「平和を実現する人々」(新共同訳)と、複数形にもなっています。この箇所の元である英語の原文は、ほとんどが「peace makers」なので、複数形に訳した日本語の聖書が原文に忠実なようです。

このように多様な訳文を比べてみると、そこから平和の具体的な方法が見えてきます。「あなたたちは平和のために努め、平和のために働き、平和を作り、平和を実現しなさい！」というのがイエス様の平和に対する教えでした。私たちは、イエス様の言葉通り「peace makers 平和を作り出す人々」として神様に召されました。平和のため祈ることや、心配するのも大切ですが、具体的な平和を作るために働かなければなりません。力の優位の確保を前提にしている国際・外交、あるいは特定の組織の中だけに通じる世間の「平和」ではなく、十字架の犠牲による和解を実現されたイエス様の平和を作り出す決意でイースターを迎えたいと思います。